

第 48 回家族会

令和 2 年 1 月 25 日（土）に第 48 回目の家族会を開催いたしました。今回は「自宅での介護におけるアドバイス」をテーマに田辺看護師に講演して頂きました。参加者はスタッフ 4 名、患者さん、ご家族 21 名の計 25 名でした。



講演では、現在流行中のインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症予防やスキンテア(皮膚裂傷)についてお話して頂きました。インフルエンザ、ノロウイルスともに手洗いが大切なことはもちろん、インフルエンザでは 50~60%の湿度管理が大切だということでした。ノロウイルスの消毒方法は、加熱や次亜塩素酸ナトリウムによる消毒があります。自宅のカーペットの上で嘔吐してしまった場合の対処方法は疑問でしたが、スチームアイロンを用いると良いと教えていただき、とても参考になりました。

スキンテアはちょっとしたことで皮膚が裂けてしまうことです。我々にとってちょっとしたこと、例えば介助するときに腕を引っ張る、車いすに移乗する際にベッド柵に擦れてしまう、更衣しているときに擦れるなど臨床の現場ではよく見られる場面で起こってしまうそうです。本当にちょっとしたことで皮膚が裂けてしまうので、つい不注意に行ってしまうそうですが、皮膚が脆弱な高齢者の方々に接する際には注意が必要です。



講演後、参加者の方々から頂いた質問の一つに「退院して自宅で家族に介助されるととき、患者はどのような気持ちでいればいいのか」という質問がありました。患者さん自身が介助を受ける側の気持ちを知りたいと思うことに驚きました。何年も前に脳血管疾患を患った患者さんは「家族に言いたいことがあるけど、言えずに我慢することもある」と言っていました。家族一つ屋根の下に暮ら

す者同士とはいえ、本音を言えないことがあるそうです。私もたくさんの患者さんを担当してきましたが、そういう方は決して少なくないと思います。案外、我々医療職が本音を聴く役目を担っているかもしれません。少しでも患者さんが入院生活や退院後の生活に不安がないように入院中から患者さんの声に耳を傾けていきたいと思います。

原田